



TITLE:

わが天文学界の多事多望：特に人材
がほしい：巻頭言

AUTHOR(S):

山本

CITATION:

山本. わが天文学界の多事多望：特に人材がほしい：巻頭言. 天界 1935,
15(169): 241-241

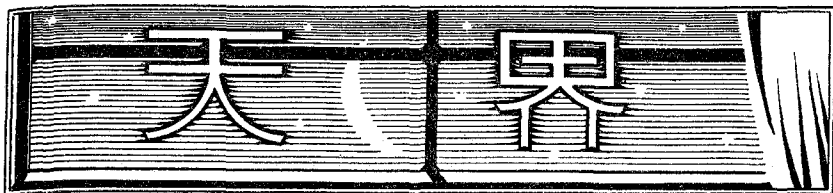
ISSUE DATE:

1935-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167023>

RIGHT:



第百六十九號 (第十五卷)

(昭和十年) 五月 號

わが天文學界の多事多望

特に人材がほしい

(巻頭言)

世界を舉げて不安焦慮にあへぎつつある今日、ひとり我が日東帝國は上御一人の御神威と、國民各個の奮勵努力とにより、勇ましくも幾多の難關を突破して、今や、武備に於いても、財界に於いても海外諸方を壓倒し、天地の災禍にわづらはされつゝも、尙ほよく此等に打ち克ちつつある時期に於いて、又ここに、最近われ等の天文學界に洋々たる前途を約束するニュースが陸續として我等の耳に入りつつあることは、何たる喜悅であるか!!

近畿の中心に位する生駒山の山頂には花山と大軌との合作になる一大天文氣象臺が設立されんとし、大阪市の中樞地には吾人の永く待望してゐた、東洋最初のプラネタリウムが建設されんとする運びにある。其の他、諏訪には黒點觀測所の計畫があるし、又、臺灣、ブラジル、ハワイ等にも近く何等かの新しい天文研究所が新設され、或は増設されんとしてゐる。まことに昭和の盛時と言はねばならない。——今一二ケ年にして此等遠近の新設備が百花の咲き亂れる如く、學界俗界を飾ることと思はれる。

この時に當り、吾人がひそかに心を寒からしむるものは人材の問題である。我が國の天文學界は永く歐米の進況に後れ、人材も乏しく、設備も整はず、甚だ不況の有様であつた。最近十數年間、俄然として通俗社會に天文趣味が普及して來たとは言へ、すぐ其の後に展開すべき盛時に應ずる用意がなく、目下大發展の緊急時機に際し、俊才や能才を何所より求むべきか!? の感を深くせしめるとは、遺憾である。ねがはくは新進の諸士、奮つて此の好機を逸することなからんことを!! (山本)。